

中学校 特別の教科 道徳

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

中学校特別の教科 道徳（以下、道徳科という）の目標は次のとおりです。

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める**学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」として、道徳教育の目標とめざす方向性が同一であることが明確になっています。

また、「道徳的諸価値について理解する」、「自己を見つめる」、「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」、「人間としての生き方についての考えを深める」というように、学習活動が具体化されています。

そして、これらの学習を通じて、「道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度」を育て、「よりよく生きていくための資質・能力を培う」という趣旨が明確に示されています。

内容構成の改善・充実

現行学習指導要領 4つの視点
1 主として自分自身に関すること
2 主として他の人とのかわりに関すること
3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること
4 主として集団や社会とのかわりに関すること



新学習指導要領 4つの視点
A 主として自分自身に関すること
B 主として人との関わりに関すること
C 主として集団や社会との関わりに関すること
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

新学習指導要領 内容項目一覧

A	(1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長 (4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造
B	(6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容
C	(10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神 (13) 勤労 (14) 家族愛、家庭生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実 (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 (18) 国際理解、国際貢献
D	(19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び

- 内容項目のまとまりを示していた視点については、1～4と呼んでいたものを、生徒にとっての対象の広がり即して、A～Dに整理し、順序を改めました。
- 内容項目は24項目から22項目へ変更されました。より体系的・系統的に指導ができるよう、これまでの2-(2)と2-(6)を「思いやり、感謝」に、2-(3)と2-(4)を「友情、信頼」に、それぞれ統合しました。
- 構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げることや、内容項目が多の人に理解され、家庭や地域の人とも共有しやすいものとするなどの観点から、例えば、「A(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」という内容項目に対し、手掛かりとなる「自主、自律、自由と責任」等の見出しを付記しました。

改善のポイント

- 発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る、と示されています。
 - ※「考える道徳」・・・主体的に自分との関わりで考えることで、自分の考え方、感じ方を明確にすること
 - ※「議論する道徳」・・・多様な考え方、感じ方に出会い、交流することで、自分の考え方、感じ方をより明確にすること
- 指導する教師一人ひとりが、質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行う、と示されています。
 - ※質の高い多様な指導方法の例： 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
問題解決的な学習
道徳的行為に関する体験的な学習

2 中学校 道徳科における授業づくりのポイント

道徳科の目標に示された学習過程に基づいた授業づくりの充実

道徳科では、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間とするために、道徳科の目標に示された学習過程をふまえて授業を工夫していくことが大切です。

① 道徳的諸価値について理解する

思いやりを行動に表せたとき、どんなことを思いましたか

相手の笑顔を見て、思いやりって大切だと思った。

大切なのは分かっていたけど、最初は周りの人に見られているって考えると、はずかしくてできなかったんだ。

友だちの話聞いてみると、いろいろな考えがあるんだなあ。

価値理解

人間理解

他者理解

② 自己を見つめる

「僕」が「少し試してみようまいかないとすぐにあきらめる癖がついた。」とあるがなぜだろう。

難しくなって、途中で投げ出してしまったと思うよ。分かるなあ。

僕にも同じようなことがあったけど、やってみてできなかったから、あきらめてしまったんだ。

・登場人物の気持ちではなく、登場人物に共感して考える
・自分事として考える

「目標をもつということ」（「大切な心」を見つめ直して 中学校）より

③ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える

来た道を引き返す電車の中で、研一は、どのようなことを思っていたのだろうか。

これまで自分のことしか考えていなかった。

おじさん、おばさんに、感謝している。

母や町の人みんなに支えられていたからこそ、今の自分がある。

常連客や雅也の優しさがありがたい。

諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目して様々な角度から総合的に考える

「帰郷」（私たちの道徳 中学校）より

④ 人間としての生き方についての考えを深める

今日、考えたことを、ふりかえりましょう。

これまでの自分は、相手のことをそれなりに考えてきたつもりだったけど、相手のことをそこまで深く思うことができていなかった。これからは、相手のことを深く考えるような広い心を持ちたい…

智行のような心は私だけでなく、みんながもっているもので、そういった感情を持っているのが人間だと思います。私も自分自身の弱い面に気付いたことがあったけど、これからは自分の弱さを認めて受け止め、変わることのできる人になりたいです。道徳を見て、人はいつだって…

「二人の弟子」（私たちの道徳 中学校）より

以上①～④に示すものは、あくまでも例であり、年間指導計画に基づき、生徒や学級の実態に即して、道徳科の特質に基づき、適切な指導を展開することが大切です。

3 評価のポイント

道徳性を養うことをねらいとする道徳科では、生徒の内面的資質としての道徳性を評価するのではなく、その学習状況や成長の様子を、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で適切に把握し評価します。また、個々の内容項目ごとではなく、大くりなまとまりを踏まえて評価します。そして、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行います。

【評価の視点】・一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか（例）自分と友だちの考えを比べて考えている
・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか（例）自分の生活を見つめ振り返りながら考えている

道徳科の評価は、学校として組織的・計画的に行われることが重要です。

例 ○ポートフォリオ評価…ワークシートや作文、レポートに生徒の考えを記述させ、ファイリングして見取る工夫

○観察による評価…授業中の顕著な発言やエピソード、話合いの様子を記録して見取る工夫 など

※評価の実践事例は、『特別の教科 道徳』実践事例集』（平成30年 大阪府教育庁）に詳しく記載されています。

授業実践を振り返るポイント

① 価値理解だけでなく、人間理解や他者理解の場面はありましたか

価値理解…内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

他者理解…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方は一つではない、多様であるということ的前提として理解すること

② 自己を見つめる場面はありましたか

真摯に自己と向き合い、自分との関わりで改めて道徳的価値を捉え、一個のかけがえのない人格としてその在り方や生き方など自己理解を深めていくことが大切です。

③ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える場面はありましたか

人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることが大切です。

④ 人間としての生き方についての考えを深める場面はありましたか

・人としてよりよく生きる上で大切なものは何か
・自分はどのように生きるべきか
などについて考える場面を設定しましょう。

○生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていましたか

授業実践の振り返りを常に指導に生かし、生徒の成長につなげていきましょう。